

# 大川敬太郎氏

## 1. 立候補を決めた理由を教えてください

故郷である西浦・内浦地区では少子化・高齢化が進み、沼津市行政の様々な施策がこの地域から離れ、減少している。その中で地域住民も自信を無くしており、とにかくなんとかしなければならぬと感じた。地域の人間として住民ひとりひとりの意見を聞き、前職の沼津商工会議所で培った産業振興のノウハウを地域振興に活かし、自分自身も農家の一人として、名産品の多い南部地区から沼津市全体が元気になるように取り組みたい。

## 2. 沼津市が現在抱えている最大の課題は何で、どのような対応策が必要だとお考えですか

人口の減少に歯止めがかからない事。何が原因かをしっかりと分析・検証する必要がある。その原因に対する対策をしっかりと行った上で、沼津市の魅力を再構築する。具体的には津波など大規模災害に対して市民の不安を払拭するよう、発生時の初動対応から市民の行動と行政の対応を確立する。また農業を含む全産業において労働力不足、担い手不足が顕著であるため、女性の活躍の場や高齢者でも続けられる仕事・産業の創出を図る。

## 3. 沼津駅付近鉄道高架事業により沼津市の再生は可能だと考えますか。

可能だとすれば、そこには、どんな因果関係があると思われますか。

沼津駅付近鉄道高架事業を中心とした沼津駅周辺総合整備事業は沼津市再生の起爆剤ではなく、まちづくりの一つの手段・手法として先人たちが事業実施に向けて努力をされてきた。この事業を核として、時代に合ったまちづくりを継続して進めていく必要がある。足を止めて再検証する余裕はない。全ての事業において、やらない理由・やめる理由を考えるのではなく、どう進めるか、どうしたらできるのかを常に考えなければならない。

## 4. 沼津市の人口減少について、国の関係機関の予測を上回るような沼津市当局が考えている合計特殊出生率の達成は可能だと考えられますか。

移住・定住策で何か、お考えはありますか。

合計特殊出生率の低下は、全国平均や近隣市町と比べて若者世代、子育て世代の割合が少ないことが原因と考えるが、問題の根本は人口の減少が止まらない事である。津波リスクなどの懸念材料を上回るような沼津に住む魅力、沼津で子育てをする利点を沼津市の施策として早急に考え、創出しなければならない。また、アニメツーリズムなどを支援し、関係人口が増加する取り組みを行政の施策だけでなく地域・民間でも考える必要がある。